

木曾地域の高校の将来像を語り合う会 発言要旨

令和元年9月13日（金） 午後6時00分

木曾文化交流センター 大会議室

出席者

学校関係者（小中学校PTA代表者、中学校長）7名

- 1 開会
- 2 自己紹介
- 3 日程及びねらい
- 4 高校改革～夢に挑戦する学び～ 県教委～説明
- 5 高校の状況について 木曾青峰高等学校、蘇南高等学校からの説明
- 6 意見聴取

○出席者 青峰も蘇南も通学の時間って今大体みんなどれぐらいかけて、例えば南木曾町の子が青峰に行くときにどれぐらい時間がかかるのか。バスの時間とか、乗り継ぎ、電車を使ったりとかいう時間。南木曾町だと多分親御さんが送って、電車に乗せて、帰りも電車で来たのを迎えに行ってしまうようなことをやっている思うんです。

それが福島のほうから蘇南へ来ている子たちはどういう時間をかけてきているのかを知りたいと思うのですが。

○蘇南高校 本校は7割から8割方が電車通学になっています。例えば福島からですと、大体電車で40分から45分ぐらいかかります。駅から本校までが15分から20分と。今本校に通ってきている中で一番遠いのが開田の子たちになるかと思えます。ですから、開田の子たちはその前にバスで出てきているわけですね。そのバスの時間、大体30分ぐらいでしょうか。それが例えば部活動だったり、今年3年生は補習をやったりだとか、就職の書類、あるいは進学書類を調えるのに8時の電車になった場合には、親御さんに迎えに来ていただかないと無理かなと。そんな状況です。

○木曾青峰高校 車で送り迎えをされている親御さんが多いかなという印象を受けております。

○出席者 結局どこでもそうだと思うんですけど、統廃合があることによって、子供たちへの負担もあるだろうし、親への負担もあると思うんですね。それによって、その辺のことをどう解決していくのかということも考えながらお願いしたいと

思います。

○出席者 教育の最近の方針が今聞いていると変わってきているなというのを感じました。自分が高校のときは、ひたすら先生に張りつけられ、そんなようなイメージしかないのです。

○出席者 私もここへ来るまで何をやるかよくわかっていないところがあったんですけども、この会議は何のためにやっているのか論点がよくわからない。

ただ、個人的には子供が学校へ行くということは、基本的には勉強をするために行くのであって、学校ありきではないだろうというのを1つ思います。木曾町の人口ビジョンを見せてもらおうと、木曾町で2040年になると一学年40人ぐらい、この木曾町ですら一学年40人ぐらいの人口しかいないような時代に高校がそもそも2つが成り立つのかどうか。その辺は無理じゃないかなと思ったりもするので、そうなってくれば、やはり学校は統合される。もしくは、うちは木祖村ですので、塩尻までなら30分、松本まで行っても40～50分という距離を考えると、そこへ通うというのも、当然選択としては、学びの場としてはありなのかなと思いました。

○出席者 私は今高校生に1人と中学3年生に1人子供がいます。中学3年生の娘が今から受験なんですけれども、どこを志望するかについて、具体的にまだはっきり決められずにいて、中学生に対して高校側からの説明というのは3年生が対象ですね。なので、3年生になって初めて高校のことを知って、すぐに選択というのが期間的に短いかなど。中学校全体で高校から説明があったりしたら、もう少し長い期間で進路が決められるのかなというのを思いました。

○出席者 先ほど青峰の校長先生が言った125人を切らないようにいろいろとやるということなんですけれども、減っていくのはもう自然の流れで、今は高校だけの頑張りじゃどうしようもできないことだと思う。幾ら魅力的な高校であっても、郡外から呼び寄せないと増える要素というのではないと思う。それはこの町で生活する高校生じゃなくて、生活する人を呼び込むことに対して、町の施策も何か必要だと思うんです。高校生に限らず住民を増やしていくのが。

ただ来てくれ来てくれでは難しいと思うので、どうやったら来てくれるかといったら、魅力があっても生活できなきゃダメなので、仕事があつてとか、そういう何かいろいろなことが必要になってくると思う。例えばお金を払ってでも来てもらうとか、思いっきり援助をしてあげて来てもらうとか、空き家を使って、山村留学じゃないですけど、無償で衣食住を町なり県なりで補助して、そう

いう全体で考えていかないといけないと思います。

○出席者 教育の議論の根本というか、木曾の場合はもう既に少子化、あるいは高齢化というものが10年、あるいは15年先を行っている状況で、2033年に117名になるからどうしようという話をして、今の人口減少カーブでここまで人数が減ると、多分産業自体がもう破滅的です。高校云々というよりも地域の存亡自体がかかっているような状況で、教育という部分だけで議論をしているのは不毛だと思います。

例えば高校もどういう形にして、地域おこしのために使っていくとか、方向の大きい議論に持っていく形にしないと、木曾の場合は県からの主導でこうしましょう、高校をどうしましょうなんていう議論をしていますが、もう5年後には既にビジョン変わっていると私は思います。

少なくとも、木曾という地域を存続させていこうと思ったら、極端な話、外国の方をたくさん受け入れるだとか、今日本全体で外国人の労働者の方を受け入れようというのであれば、我々はその1歩も2歩も先に行って、地域全体で労働者あるいは住民として外国の方を受け入れて、グローバルなところへ行こうとか。そのためには高校だったら海外の留学生をどんどん入れようか。先ほど蘇南高校でコミュニケーションのお話があったんですけど、そういうコミュニケーション能力の高い人材を木曾地域から発信させることができれば、木曾にも逆に人を呼び込んでくれたりだとか、そういうこともできるのではと思います。

○出席者 私が感じたのは、今うちの子供が蘇南高校1年生にいます。中学3年生になってからやっと情報が入ってくるという状況があり、高校の情報を小中連携みたいな形で、またはオープンな形で何かやってもらえると、高校のことがわかったり、どういう教育というか、そういうことがわかってくるので、もう少しその辺をお願いしたいと思います。

商売をやっていますとインターネットなんかで情報をこっちから提供してお客さんに来てもらうということをしているので、そういうようなことができるようでしたらお願いします。

○出席者 やはり学校がなくなってしまうと、一気にもう人口減少は加速していくと思います。そういった意味でも2校存続は死守していかなければいけないと思っています。

教育に金を使わない国は滅びる、地域は滅びる、県は滅びると思っています。たとえ生徒が1人になっても、そこに生徒がいる限りは高校をちゃんと残しておかな

いと。それが教育行政の使命じゃないかと思っています。

多様な学びの場ということで説明がありました。蘇南高校も青峰も努力していると、県の中でも先端を行っている、そういった学校じゃないかと思っています。

子供たちは多様なんですね。昔のように一斉で授業をやって、それでちゃんと振り向いてくれる生徒たちばかりではありません。それぞれのよさというものを生かしていくような、そういった個に寄り添った指導というものを中学校、小学校ではやっています。そういった多様性、多様な子供たちに対応できるような学校づくりというものをしていく必要があるのではないかと思っています。

小中高連携というような話も出てきましたけれども、まさしく小中高の連携のモデルを、この木曾地域から発信していければいいのかなと思いました。

○**県教育委員会** この意見聴取は何のためにやっているかということであったかと思いますが、私どもが示したこの実施方針に基づいて、これからの木曾地域の子供たちのために高等学校はどうあるべきかというようなことから、御意見をいただけるとありがたいと思っています。

木曾地域においては、ここまでも高校の再編はあったわけではありますが、先ほども皆さんから御指摘のあった社会情勢と申しますか、地域が今後衰退しないためにどうするか、それにも学校は必要なものだというような御意見があったかと思えますけれども、再編は少なくとも前提とは私どもは考えておりませんので、地域としてその2校をどのように魅力をつくり、あるいは活性化していくか、それが地域の支えのためにどんな学びを、そういった高等学校で行うことが必要かというような観点からも御意見を頂戴すると、今後の協議会にとってもありがたいのではないかなと思います。

7 意見交換

○**出席者** 白馬高校の現状について知りたい。島根県など高校の全国募集の先行事例がある。木曾も何か良いアイデアがあると良いと思いますが、地域として何か考えられないでしょうか。

○**県教育委員会** 白馬高校は観光系学科の新設を求め、白馬小谷両村が全国募集による県外生等のための寮を整備しました。結果、現時点では全校生徒数もV字回復し（2019年5月1日現在209名が在籍）統廃合の危機から立ち直ったとの評価もあります。

また、両村は白馬高校生のために「公営塾」も設置し、地域おこし協力隊員を塾講師として雇用、今春卒業した国際観光科1期生及び普通科の卒業生においては

学校の学習・進路指導との連携により大学進学者数の増といった成果も現れています。

- 出席者 教育の課題について真剣に考えるのは大事なことです、PTAという立場からだとどうしても我が子のこと、子どものことが中心な話題になります。先ほども発言しましたが、学校や教育のことだけ話していても木曾の人口減少等の深刻な課題の抜本的な解決にはつながらない。町村長も交え行政を含めて話したい。木曾広域の町村が自発的に考えるべきではないでしょうか。協議会では下から突き上げる形で、大きなスケールで議論してほしいと思います。

地域を挙げた高校づくりが大切と考えます。町村間の連携の中で夢のある話ができるの良いのではないのでしょうか。地域の将来が心配。木曾が減びないように頑張してほしいし、そんな場を設けて大胆な発想が出せると良いと思います。

- 出席者 木曾の子どもたちは高校進学にあたり学力という基準でしか考えられない現状があるように思います。小学校高学年のうちから高校の情報が得られると良いと思います。

- 出席者 高校には学校の中を見せてもらえると良いと思います。小中学生などに部活動などを見せてあげる機会があると良いのではないのでしょうか。そうすれば小中学生の中で高校への憧れが高まるのではないかと考えます。

- 木曾青峰高校 すぐに取り組みたいと思います。ただ、訪問しての学校説明会のおぜん立ては中学校側でしてくれるので、中学校側の事情が許せばという限定付きです。小学校に高校生が訪問する取り組みもあり、と考えます。

- 蘇南高校 南木曾町内の小中高の連携は取れています。それを拡大すべきとも考えている。職員の交流、授業見学を実施しており、今年は中学校体育館の工事に伴い部活動も一部中高合同の活動をしています。南木曾小学校の児童が蘇南高に来て高校生からパソコン操作の手ほどきを受けるという実践もあります。蘇南高校の合唱コンクールに町内の小中学生を呼ぶ取組みも行いました。これからも出来るだけこうした連携を強めていきたいと考えています。

- 出席者 蘇南高が英語教育に力を入れていることを今日初めて知りました。英語に集中するのも良いと思います。南木曾に来れば英語のエキスパートになれるというのも木曾の高校の売りのひとつになるのではないのでしょうか。木曾が観光地であることを活かしていきたいものです。

木曾は昔から郡外等への流出自体はあったと思います。高校に限られた学校しかないこと自体には不満はありません。そうした中で、地域全体を魅力あるものにす

るためには地域全体で取り組むべきというのが私の考えです。

○出席者 教育に関してお願いしたいことがあります。蘇南高の英語の取り組みをとっても嬉しく感じました。少子化が進んだ今、木曾の町村の子どもたちは保育園から中学校まで同じメンバーで過ごしていきます。地元の高校に進めばまた同じメンバーの中で過ごすことになります。そうした中で、コミュニケーション能力をいかにして高めていくかが重要になると考えます。自分は塩尻市や県外でも仕事をしていますが、木曾は閉鎖的な土地と感じています。ただし、木曾の人が人柄が一番良いと思っています。その人柄の良さが十二分に生かされるようにするにはコミュニケーション能力を高めることが重要です。ぜひコミュニケーション能力を養い育てる教育をしてほしいと思います。

○蘇南高校 最後に、蘇南高に郡外から来ている生徒たちのことをお話ししたいと思います。全校生徒の30%は隣接県協定により中津川市から入学しています。また、15名程度が郡外から入学していますが、郡外から蘇南を選んで入学してくる生徒たちは主にバドミントン部に所属し、インターハイや国体で活躍しています。

8 閉会